

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073600282		
法人名	有限会社 ステップ		
事業所名	グループホーム りびんぐ 紀水庵		
所在地 (電話番号)	〒811-3126 古賀市小山田497-1		(電話) 092-943-1616
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年5月19日	評価確定日	平成21年6月10日

【情報提供票より】(H21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15人, 非常勤 3人, 常勤換算 17.1人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>		新築 / 改築
建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低 80 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた民家風の平屋建てのグループホームである。広い敷地には季節の木花が植えられ、庭にはデッキがあり、テーブルや椅子が置かれている。「安らぎ・安心・安全、生活を地域とともに創造し、身にやさしいケアを実践する」という理念を掲げ、地域密着型サービスとして、地域の中でその人らしく暮らすことの実践に向けて日々取り組んでいる。開設して6年が経過し、地域とは良い関係が築かれており、現状に甘んじることなく原点へ戻り、グループホームの在り方について施設長、職員が一丸となって考えていこうとする姿勢がうかがえる。ホーム内では、施設長の入居者への温かい想いの通り、入居者と職員の穏やかな笑顔が見られ、和やかな時間が流れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善点については、職員内だけでなく、運営推進会議の際にも議題として挙げ、改善に取り組んでいる。入居者家族への報告では、写真の他に担当介護職員のコメントを添えたり、遠方の方へは電話等で細かい連絡をしている。避難訓練では本年度は日中だけでなく、夜間を想定して行うとのことである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長、職員は自己評価や外部評価をサービスの質の向上のための再点検と考え、自己評価は全職員で取り組み、施設長により一つにまとめられている。昨年の外部評価については、玄関で閲覧できるようにしたり、運営推進委員会で報告し、改善点なども全職員で検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>入居者家族、行政、区長、有識者として病院の師長が参加している。入居者家族は代表という形ではなく、全員が運営推進委員となっており、できるだけ多くの意見や要望を受けようとする姿勢がうかがえる。外部評価の報告や改善点、業務に関しても話し合いを行い、サービス向上に活かしている。本年度より会議の回数を増やすとのことである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居者家族全員が運営推進委員であることや、普段より家族の来訪が多いことから、意見などが聞きやすい環境にある。実際に家族からの要望でホームの看板を設置しており、反映ができています。家族との良い関係が築かれているからこそ出にくい苦情、不安を聞き入れたいという施設長の熱心さがうかがえた。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設時より地域との交流が積極的に行われており、地域の夏祭りに参加するなど交流の場を持っている。開設して6年が経過し、これまでに積み上げてきたものを活かして、どう地域貢献していくかを考え努力している様子がみられる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らすという普通のことを認識し、実践していくために、「安らぎ・安心・安全、生活を地域とともに創造し、躰にやさしいケアを実践する」という理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時のオリエンテーション、月1回のミーティングで、施設長から理念について話している。共用空間にも理念を掲示するなど、職員が日常的に理念を共有できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より地域との交流が積極的に行われており、地域の夏祭りに参加するなど、交流の場を持っている。開設して6年が経過し、これまでに積み上げてきたものを活かして、どう地域貢献していくかを考え努力している様子がみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、職員は自己評価や外部評価をサービスの質の向上のための再点検と考え、自己評価は全職員で取り組み、施設長により一つにまとめられている。昨年の外部評価については、ホーム玄関で閲覧できるようにしたり、運営推進委員会で報告し、改善点なども全職員で検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、行政、区長、有識者として病院の師長が参加している。入居者家族は代表という形ではなく、全員が運営推進委員となっており、できるだけ多くの意見や要望を受けようとする姿勢がうかがえる。外部評価の報告や改善点、業務についても話し合いを行い、サービス向上に活かしている。本年度より会議の回数を増やすとのことである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へは毎月出向き、情報交換を行っている。運営推進会議でも意見をいただき、関係づくりを行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	内部研修を行い、権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めている。入職して日の浅い職員でも制度をよく理解しており、研修が行き届いていることが分かる。また、実際に利用している入居者が居り、必要性についても良く理解している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の近況は、定期的に行事や写真などを載せた紀水庵だよりと一緒に、担当介護職員による細かいコメントなどを添え、郵送している。個々に合わせた報告は、必要時に行うほか、家族の来訪時や、遠方の方に対しては電話での報告もしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族全員が運営推進委員であることや、普段より家族の来訪が多いことから、意見などが聞きやすい環境にある。実際に家族からの要望でホームの看板を設置しており、反映ができています。		家族とは日常的にコミュニケーションが良く取れており、苦情や意見は少ないと思われるが、家族アンケートを実施したり、意見箱を設置するなど意見をくみあげるための更なる取り組みに期待する。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時には、できるだけ3ヶ月の引き継ぎ期間を取るようになっている。施設長は、離職者の減少を図るため、やりがいのある組織づくりや、ストレスの軽減を行う努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別で採用から排除することはない。職員の得意なことをホームの活動に活かしており、役割、責任を持ってホーム運営に参加してもらうため、様々な委員会(行事・レク、美化・感染対策、食事・健康、環境・整備、営繕・接遇拘束、救急・災害)を設け、全員でホーム運営に携わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は、定期的な会議や内部研修で、人権の尊重や日々の実践について具体的に説明している。		
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、職員が働きながらトレーニングしていくことに協力的であり、入職時には細かいオリエンテーションを行ったり、他のグループホームでの実習、スーパービジョン制度を導入して不安や悩みの解決にも努力している。職員が内外の研修を受けるために柔軟な対応をしている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会の参加や、地域のグループホームの支援連絡会でも中心となり、そこで、施設長、職員は発表を行う予定もあるとのことである。他のグループホームとの交流を図り実習を行うなど、交流を通じてサービスの向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と相談し、一人ひとりに合わせ見学するなどして、不安の軽減に努めている。入居の時期についても、ホーム側ではなく、本人・家族の事情や都合に合わせている。今後は共用型デイサービスやショートステイなども検討しているとのことである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」をモットーに、入居者を尊び、心に寄り添い、日々の生活の中で喜怒哀楽を共にしている。訪問調査当日の職員との対話や視察でも、職員の人柄や入居者への対応により、日々の生活を穏やかに一緒に過ごせていることがうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメントを取り入れ、入居者本人の希望や意向をくみ取れるよう努めている。また、アセスメントの内容から、必要な支援について職員で話し合い、細かな把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に対し、意見交換や1ヶ月ごとのモニタリング、カンファレンスなどを担当職員を中心として全職員で行っている。介護計画作成は、入居者の状態やニーズ、家族の気持ちを大切に、作成後も必ず提示している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、3ヶ月に1回行っている。モニタリングは月に1回行っており、必要に応じて見直しを行っている。入居してしばらくは、暫定プランをたて、細かな意見交換がなされ、その後の介護計画につなげている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、通院や送迎などを行っている。他にも、その日の希望により、行きつけの理髪店に行ったり、買い物や自宅訪問、お墓参りなどにも同行し、柔軟な支援ができています。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関があるが、入居者や家族の希望を大切に、入居前よりかかりつけ医がある場合には継続的に利用しており、必要に応じて通院や送迎、往診も支援している。入居時に一度、連携医療機関を受診し、緊急時にも備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末に対する対応指針を重要事項説明書に記載し、家族に説明している。介護職でできる範囲での関わりを持ちながら、入居者や家族の状態・状況に応じて対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にミーティングなどで話をしており、職員の意識向上を図り、業務の場面や個別面談で個々に対応している。記録などの個人情報は共用空間でも目にするのではなく、事務所内の鍵のかかる棚に保管されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの気持ちを尊重して支援しようという姿勢がうかがえる。散歩や買い物など、入居者のその日の要望にも対応しており、柔軟な支援ができています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に調理、配膳、片付けを行っている。フリーメニューの日を設け、入居者の希望や食事委員会が出された意見などを実際に取り入れている。職員は入居者と同じ食事を同じテーブルで一緒にしており、入居者も楽しく食事ができる様に支援できている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間は決めておらず、夜間に入浴する入居者も居るなど、ホーム側の都合ではなく、一人ひとりの習慣や希望が大切にされている。入浴後はお湯を抜き、毎回新しいお湯を溜めるなどの配慮がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の「できること・できそうなこと」「趣味や楽しみ」の把握に努め、動機付けを大切にし、それぞれが役割を持って生活できるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者のその日の希望や状態に応じて、散歩やドライブ、買い物、理髪、自宅訪問など、日常的に外出ができています。広い庭には、デッキを通過して車イスでも出ることができ、天気の良い日にはひなたぼっこをしたり、お茶を楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、職員による見守りで対応している。地域住民の理解もあり、協力もお願いしているとのことである。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者も一緒に避難訓練を実施している。職員は避難方法、避難場所の把握ができています。地域住民にも日ごろから協力をお願いしている。本年度は日中だけでなく、夜間帯の場合を想定しての訓練を行うとのことである。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会があり、1日のおおよそのカロリーや水分量を設定している。水分量は毎食ごとに記録されており、不足しないよう配慮されている。定期的に体重の測定を行い、食事量を調整している。入居者のアレルギーや好き嫌いなどを把握し考慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、暖かい照明の中で、手作りの大きなカレンダーや観葉植物、絵葉書などがあり、温もりのある空間である。廊下には天窓があり、自然光が差し込んでいる。掃除も行き届いており、清潔感がある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、好みのものや使い慣れた家具、テレビ、仏壇などが持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		